

令和5年度 江戸川区立下鎌田東小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	・生涯にわたって学ぶ意欲をもち、生きる力の基となる考える力の育成 ・自分も相手も大切に、豊かでしなやかな心の育成 ・健康な体をつくり、粘り強くやり抜く力の育成	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・笑顔と活力にあふれ、児童一人一人が自分のよさを発揮できる学校 ・考える子 思いやりのある子 たくましい子 ・全ての教職員が協働し、質の高い教育活動の実現を目指す教師
--------	---	----------------------------	---

前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 校内OJITの推進により、教員が一人一台端末(iPad)の活用について研鑽を深め、授業等での積極的な活用が行われた。不登校等、長期に渡り欠席する児童が年間をとるとしてはばいなかったことは成果である。引き続き対応を行っていく。 <課題> 新型コロナウイルス感染症対策の継続と学習活動、学校行事等の在り方、制限の見直し等を随時行う。一人一台端末(iPad)の活用を推進していく上での情報モラル教育の徹底を図る。		
-------------------	---	--	--

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・全国学力・学習状況調査への取組 ・「東京ベーシック・ドリル」の活用推進 ・放課後補習教室の実施・有効活用 ・SNS学校、家庭ルールの充実	・全国学力・学習状況調査において、平均正答率を全国の平均以上 ・東京ベーシック・ドリル診断シート平均正答率の向上 ・放課後補習教室の定期的な実施と学習定着度について業者との情報共有(各学年週1回) ・SNS学校、家庭ルールの適宜見直しと改善	A	B	○全国学力・学習状況調査の平均正答率は、国語、算数共に全国を上回った。 ○放課後補習教室における児童の定着状況を確認し、各学級での指導に生かしている。 ○一人一台端末のルールを策定し、児童に指導するとともに、内容を保護者に周知することができた。	B	・全国学力・学習状況調査において、全国平均を上回ったのは成果である。来年度は、都の平均を上回れるよう、引き続き学力向上に向けた取組の推進に期待する。 ・一人一台端末の扱い方の指導は大変重要である。保護者の協力も大いに期待する。	・全国学力・学習状況調査の結果を分析し、必要な手立てについて検討を行う ・放課後補習教室のさらなる効果的な取組について、検討を行う。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・探究的な学習での学校図書館の積極的活用 ・区立図書館との連携強化	・全学級、週1回以上学校図書館を活用 ・各教科で探究的な学習を活用した授業展開の実施 ・区立図書館巡回業務を活用した図書館整備(月2回) ・読書週間の実施(年2回)	B	B	○授業の中で、定期的に学校図書館を活用している。 ○区立図書館巡回業務により図書館の整備が進められ、特別コーナーの設置等、児童が利用しやすい工夫がされている。 ●探究的な学習の充実に向けた授業改善が課題である。	B	・一人一台端末を活用した調べ学習だけでなく、図書資料を活用するよさも児童に指導し、効果的に探究的な学習が進められることを期待する。 ・読書週間や読みかかせ等の取組を通して、児童がさらに読書に親しみようになると期待する。	・各学年で「SDG'S」について、探究的な学習をさらに進め、学習発表会で成果を発表する。 ・秋の読書週間の実施に向け、委員会活動を活用した取組の推進を行う。
	<ICTの推進> 一人一台端末(iPad)を活用した個別最適な学びの充実	一人一台端末(iPad)を活用した授業改善 「ミライシード」の活用推進	一人一台端末(iPad)を1日1回授業で活用 「ミライシード」を適宜家庭学習等での活用と「江戸川のちstudyweek」(年3回)における重点活用	B	B	○各学級で一人一台端末を積極的に活用することができた。	B	一人一台端末を授業の中で活用できているのは評価できる。併せて情報モラルの指導も引き続き進められることを期待する。	「ミライシード」のさらなる効果的な活用について引き続き検討を行う。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・「運動あそび」(東つタイム)の実施 ・「なわ跳び週間」、「持久走週間」を設定し、基礎体力の向上を図る	・「運動あそび」(東つタイム)の設定(月1回) ・「なわ跳び週間」、「持久走週間」(2月)の実施	B	B	●体力テストでは、「持久走」、「立ち幅跳び」が都の平均を下回り、課題が見られた。	B	・児童が外遊びを楽しみ、積極的に活動し、体力向上につながることを期待する。 ・「運動遊び」を通して、児童の持久力の向上を期待する。	・「持久走」、「立ち幅跳び」の課題解決に向けた体育学習の授業改善を行う。 ・「なわ跳び週間」、「持久走週間」の取組を充実させる。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の推進 ・特別支援教育研修の実施 ・副籍交流校と、手紙交換による交流の実施	・全学級によるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実施(年3回) ・特別支援教室専門員との連携をとおしたエンカレッジルームの適宜効果的な活用 ・副籍交流校と、毎月、学校便りや学年便り等を交換し交流	B	B	○配慮を要する児童に対し、エンカレッジルームを効果的に活用し、個に応じた適切な支援を行うことができた。 ○副籍交流校と、毎月、学校便りや学年便り等を交換し交流している。引き続き、手紙交換による交流を継続していく。	B	・支援を必要とする児童の育成に向けた取組が進められている。引き続き、支援の在り方について検討を行い、より多くの児童が学びやすい環境を整えてほしい。	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習活動や教室環境を意識して授業改善を行う。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hysper-QUの活用	・毎週の生活指導連絡会の充実 ・いじめ防止に関する授業の実施 ・いじめ・不登校対策委員会の開催 ・hysper-QUの活用 ・不登校傾向児童への働きかけ	・いじめ防止に関する授業の実施(年3回) ・いじめ防止に関するアンケートの実施(年3回) ・いじめ問題解消率100% ・不登校児童「0」	B	B	○いじめ問題については、組織的な対応を行っている。 ○週1回(木曜日)、生活指導連絡会を実施し、いじめ・不登校の防止に向けて教職員で情報共有を行っている。	B	・不登校傾向の児童が少ないのは良いことである。引き続き、保護者との連携を強化して取組を進めていくことが重要である。 ・いじめの解消に向け、教職員が連携しながら取組を進めていくことを期待する。	・いじめの未然防止・早期発見・早期対応を目指した教育活動のさらなる充実を図る。 ・hysper-QUの結果を基に児童理解を一層深め、学校経営に生かしていく。
	<安心できる学校環境の充実> ・児童の支援体制の充実	・特別支援教室専門員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、児童相談所との連携 ・エンカレッジルームの活用促進	・各関係機関との連携を強化し、定期的な情報共有と個に応じた支援について共通理解	B	B	○特別支援教室専門員を核として様々な児童の実態を基に、エンカレッジルームの有効活用、関係機関との連携を図ることができた。	B	・引き続き、関係諸機関と連携し、日々の指導に生かしてほしい。	・児童相談所、巡回型スクールソーシャルワーカーとの連携をさらに強化し、児童の支援体制を充実させる。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校ホームページをとおして本校教育活動の周知 ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校ホームページ(学校日記)に学習の様子等を毎日掲載 ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	A	A	○学校ホームページに、学習の様子を毎日掲載している。今年度4～9月で昨年度のアセス総数の85%を超え、本校の教育活動を広く周知することができている。	A	・学校ホームページが充実され、児童の学校での様子がとてもよくわかる。内容が随時更新されることを楽しみにしているとの声を聞く。	・学校ホームページの公開内容やレイアウトの充実を引き続き行っていく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・児童、保護者、地域、教職員への学校評価アンケートの実施 ・各行事等における保護者、地域、教職員アンケートの実施	・WEBを活用した効果的なアンケートの実施・充実	B	B	○学校公開や運動会等の学校行事後に「アンケートフォーム」を活用した効果的なアンケートを実施することができた。 ●多くの保護者がアンケートに回答することができるよう、アンケート方法を検討する必要がある。	B	・引き続き、保護者や地域からの意見等を参考にし、教育活動を進めていくことを期待する。	・学校関係者評価(中間評価)の内容を基に、次年度に向けて教育課程の編成を行っていくとともに、教育活動のさらなる充実を進めていく。
特色ある教育の展開	<働き方改革の推進> ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・副校長補佐、スクールサポートスタッフの活用 ・一斉定時退勤日の設定 ・完全退勤時刻を2時に設定	・勤務時間外在校時間45時間以内の教職員85%以上	B	B	○月1回、定時退勤日を設定し、効果が見られた。 ●教職員の勤務時間外在校時間45時間以内の達成率に差がある。	B	・教職員が日々心身ともに健康な体で教育活動に取り組んでいくために、働き方改革をさらに推進していくことを期待する。	・副校長補佐、スクールサポートスタッフ等の職員をより効果的に活用し、教職員のさらなる負担軽減を進める。
	<児童の自主性の育成> ・「自らすすんで」行動する児童の育成	・異学年交流の取組を年間を通じて実施 ・ノーチャームでの学校生活の実施	・「なかよし班活動」を実施(月1回)	B	B	○児童がノーチャームでの学校生活が十分に定着しており、時間を意識した行動をとることができている。	B	・児童の自主性がさらに高まり、様々なことに意欲的に挑戦する気持を大事にしてほしい。	・引き続き「なかよし班活動」、「なかよし遠足」等の異学年交流をとおして、他者理解や思いやりの心情を育成する。